
遠浅

斉賀むつみ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遠浅

【Nコード】

N1126Q

【作者名】

斉賀むつみ

【あらすじ】

夕日の海を前にした、ひとりの女性がいた。
水をかきわけ歩く彼女に、背後からかけられる声。

現代を舞台にした、巡りあわせを信じたい短編。

運と人こそが、人を生かす。

「どこまで、行くの？」

「……考えてない。行けるところまで」

「『行けるところまで』って……そっち、海じゃん」

「そうよ。それがどうかしたの」

「だって、これから日が暮れて冷えるよ。水に長いこと浸かってたら風邪ひくし」

「構わないわ。そもそも、見ず知らずのあなたに、そんなこと心配してもらわなくなっただいいし」

「うん、まあ……それは、そうなんだけどさ」

「だって要は、風邪をひくよりも先に、楽になればいいだけのことでしょう」

「……」

「あのさあ」

「何よ、うるさいわね。放つといてよ」

「でも」

「じれったいなあ、言いたいことがあるならさっさと言えば」

「——この海、ものすごく遠浅だから、入水自殺には向かないんだけど」

「……」

「たぶん、足が棒になっても水面はそれほど上がってこないと思

う」

「……知ってるの？あんだ」

「だって、俺ガキの頃からずっとここに住んでるし。試したんだ、俺も」

「延々歩いた。何キロ歩いたのか、見当もつかないけど、それでも歩いた。でも、どんなに歩いても膝より上に水面はこない」

「……」

「うそだろ、って思って。ふと足元の深さじゃなくて、海と空を見たら、ちょうどこの時間帯、日が沈む時でさ。綺麗な夕日だった。そっぴや、今日もいい夕焼けだな」

「そしたら、全部バカらしくなってさ。やーめた、って思って引き返した。引き返してたら、満月が昇ってきたな。あれも綺麗だった」

「……」

「いまここで俺が消えても、世界は何も変わらない。それなのに、自分だけ消えるのはあまりに勿体無いって思って。それで、生きてやるって思った」

「……」

「——それでどうして、今ここにいるのよ」

「え？そりゃ、同じことしようとしてるあんだを見たからだろ」

「ふーん。……ねえ」

「ん？」

「満月、昇ってくると思う？」

「ああ、たぶん今日は満月だ。ここまで歩いて水深が変わらないなら、ほぼ確実だろ」

「え？」

「いや、こつちの話。気になるなら、からくりを教えてやるよ」

「……どんな？」

「それは、満月を見届けてからじゃないと、説明できない。どうする？戻るか？」

「……………ずるい」

「こーゆーのにずるいずるくない、は無し。で、どうすんだ？」

「戻るわよ！戻ってやるわよ」

「はは、えらそーだなあ」

「——ただし」

「え？」

「あたしが先に陸地に着けたら、あんたの名前、教えてよ」

（後書き）

会話のみで進められる短編を試験的に書いてみました。
情景描写が薄くて、すこし判りにくいので「からくり」について説明すると、

新月と満月の日は「大潮」といって、潮の満ち方も引き方も最大になります。

干潮に向かう時間に、引いていく海水と同じ方向に歩いていくとしたら、歩いている場所の水位はそれほど変わらない、という想定。もちろん、満潮が近ければ2人とも確実に溺れています。そのタイミングは運次第。

こんな現象が実現する遠浅の海は、本当に実在するのでしょうか……SFということで、お楽しみくださいませ。

くれぐれも真似をしないように！（笑）

（05 / 10 / 12 記、07 / 09 / 06 推敲）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1126q/>

遠浅

2011年1月16日09時20分発行